

大規模農場の子牛で発生したサルモネラ症の対応：

岡山県井笠家保 馬場 彩

乳用成牛約 2,500 頭、肉用子牛約 500 頭を飼養する農場で令和 5 年 12 月から子牛の死亡頭数が増加。同年 12 月 21 日、肺炎疑いで病性鑑定した死亡子牛 1 頭の直腸便から *Salmonella* Typhimurium (以下 ST) 分離。今回分離された ST は DHL 寒天培地で判別困難、多剤耐性で一部のニューキノロン系抗生剤に耐性を確認。子牛全頭の直腸便と環境材料による浸潤状況調査で、子牛 13.7% (83/605)、環境 29.5% (13/44) から ST 分離。清浄化対策として①牛舎消毒、②子牛全頭に有効な抗生剤投与、③生菌剤の増給、④成牛及び子牛全頭にサルモネラワクチン接種、⑤移動予定子牛の ST 検査 (毎週)、⑥陽性牛隔離及び⑦持続排菌牛の淘汰を実施。対策の結果、子牛の死亡頭数減少、令和 6 年 4 月以降陽性子牛の摘発なし。環境検査で 2 回連続陰性を確認し、同年 5 月に清浄化達成。従業員、診療獣医師を含め農場と綿密に協議を重ね、迅速かつ多岐にわたる対応により約 4 ヶ月で終息。